

♪ 2019年度 **poco a poco** ♪

Nr. 5 2019年6月5日(水)

文責:プファイル・辰巳

## 赤勝て、白勝て!

### ～フランクフルト大運動会～

運動会が今週末に迫ってきました。音楽室で応援団の練習があったり、運動場でラジオ体操の練習があったり、子どもたちは大忙しの毎日です。応援練習で大きな声を出せるのは、気持ちのいいものだと思います。校歌を歌う時も是非のびのびと大きな声を出せるようになってほしいものです。

急に暑くなってきたお天気がやや心配ですね。水分補給を忘れずに、運動会当日まで元気に乗り切りましょう!



## 音楽こぼれ話 <大作曲家の家族たち ② ロベルト・シューマンの妻

### クララ・シューマン 生誕200周年>

フランクフルトと<sup>ゆかり</sup>所縁の深いピアニストであり、自身も立派な作曲家であったので、「ぽこあぽこ」でも何度もとり上げていますが、今年は生誕200周年ということもあり、この連載でも紹介することにしました。クララ・シューマン(旧姓ヴィーク)は、前述の通り19世紀を代表する女性ピアニストであり、作曲家、ピアノ教師でもありました。

クララはちょうど200年前、当時のザクセン王国のライプツィヒでピアノ教師フリードリヒ・ヴィークの娘として生まれました。9歳で有名なゲヴァントハウス・オーケストラと共演し、モーツァルトのピアノ協奏曲のソリストを務めるほどの腕前でした。父は娘をモーツァルトのようにしたかったのでしょう、ステージパピ、ぶりを発揮して、ザクセン王国内外で天才少女ピアニストとして売り込んでいました。そうして、同時代のリストやショパン、ロシアのルービンシュタインと並ぶ大ピアニストとして、後世に名を残しました。

夫となるロベルト・シューマンは、父フリードリヒのピアノの弟子でした。1840年、クララが20歳、ロベルトが30歳の時、父の反対を押し切って二人は結婚しました。クララは次々と8人の子どもを出産しながらも、演奏活動は続けていました。ロベルトの方はクララの圧倒的なピアノ演奏技術に少々嫉妬を覚え、作曲に専念するようになったのでは、と言われるほどでした。ちなみにロベルト・シューマンは、「トロイメライ」や「飛翔」の作曲家です。



優秀な音楽家であったのにも関わらず、またクララのようなすてきな奥さんがあったというのに、ロベルトは精神を病み始めます。ついにはライン河に身投げして自殺未遂となり、その後は約2年間病院で暮らし、1856年、クララと子どもたちを残して昇天してしまいます。

しかし、クララ・シューマンはくじけず、ピアニストとしての演奏活動を続けます。そこにはシューマンの弟子で、後に師をしのぐ程の大作曲家となったブラームスの友情という大きな支えもありました。クララと作曲家ブラームスの関係は、友情以上のものであったのでは、という噂もあります。それはともかく、二人は音楽家としても意見を戦わせ合いながら、40年という長い年月をその後生き抜きます。

1878年から、クララ・シューマンはフランクフルトに住み、現在も運営されている音楽専門大学(Dr.Hoch's Konservatorium)のピアノ講師になりました。1896年、76歳で世を去るまで、フランクフルトが彼女の居住地でした。亡くなったのも当地においてでしたが、埋葬されているのは、クララの意志どおりボン旧墓地で、夫ロベルトの隣に眠っているそうです。蛇足ながら、ブラームスは翌年の1897年、クララの後を追うように世を去りました。

今年は生誕200周年ということもありますし、フランクフルトに住んでいたということもあり、今年は記念の行事やコンサートが聞けるかもしれませんね。

## ほんのちょっとだけ 演奏会情報

Swinging Castle バード・ホンブルグ城教会のジャズコンサート

6月15日(土)~23日(日)

詳しくは・・・ [www.castle-concert.org](http://www.castle-concert.org) を参照してください。